

## 令和2年度卒業式 式辞

生徒の皆さん、この3年間、いろいろなことがありましたね。特に、最後の1年は、札幌市はもとより日本全国、そして世界中の人々が大変な思いをしました。あなたは、今日のこの日をどのような思いで迎えたのでしょうか。

平成30年の春、あなたはこの啓北へ入学し、同時に、私も校長として着任しました。入学式の式辞でこんな話をしました。

新たな志をたずさえて、世界にたったひとつしかない、あなただけの物語をつくっていこう。「こころざし」というのは、自分が思い描く目標に心を差し向けること。ヒトやモノ、コトに気持ちを向けること。生きているということは 誰かに借りをつくること。生きていくということは その借りを返してゆくこと。そして、「メシが食える大人になろうよ」 そんな話でした。

私も3月末で高校教師を卒業します。あなたと同じく、新たな志を携えて生きていきます。まずは、家族に感謝の心を差し向けましょう。子を思う親の気持ち 数字では測れない。親の思いは計り知れません。時には子どもに嫌われるようなこと、嫌がられるようなことも言わなきゃいけない。いっぱい言いたいことはあるけれど、グッとこらえて言葉を飲み込んだことだってあるでしょう。

私自身、親にいろんな借りをつくって生きてきました。そして大切なものもたくさんもらいました。私の名前もそのひとつです。「めぐむ いち」と書いて、恵一と言います。何度も流産を繰り返した母が、もうこれが最後と思ってようやく授かった命なので「この世にいただいた、たったひとつの恵み」という意味を込めて恵一と名付けたそうです。

母が生前によく言っていました。「いただいた恵みを誰かに分けてあげなさい」

いつしか、親からもらった名前を自分が果たすべき使命、命の使い方そのものだと思うようになりました。誰かからもらった恵みは誰かにプレゼントしようと心に決めました。

過去のことを英語で past といいます。未来は future です。そして現在のことを present と言います。今、こうしてあなたが存在しているのは、過去からのプレゼントなんですね。昨日がんばった自分からのプレゼントもあるでしょう。親、家族、先生、友達からのプレゼントもあるでしょう。

次は、あなたが誰かの明日のために、プレゼンとするんですよ。

今日は旅立ちの日だから、嬉しさいっぱい、でも別れの淋しさ、新しい生活への不安、いろいろな思いが入り交じっているはずですよ。これまでも、いろんなことで涙を流しましたよね。嬉しい涙、悲しい涙。試合で勝ったり負けたり、検定試験に受かったり落ちたり。これからも、いろんな涙を流すことがあることですよ。

涙は、「さんずいに戻る」と書きます。嬉しいことも悲しいことも、その思いは必ず自分の力になって戻ってくるんですよ。

泣くは「さんずいに立つ」と書きます。泣いたあとは立ち上がって未来へ歩き出さなければいけません。嬉しい涙も、悲しい涙も、その思いを未来へつないでいくんです。涙の向こうには未来があります。

どうか、力強く歩み続けてください。

辛いときは、啓北商業の校歌を思い出してください。

異邦の空を雄飛する。まことの道に励まなん。

卒業おめでとう。